

塩狩峠

塩狩峠記念館
友の会会報第11号
平成17年3月発行

「塩狩峠記念館 三浦綾子旧宅」

4月1日オープン

塩狩峠記念館三浦綾子旧宅も平成十一年五月にオープンしてから、今年の四月で7年目に入ります。北海道の長い冬、十分な充電期間を置いた「塩狩峠記念館」が四月一日から開館します。

塩狩峠記念館では、「三浦光世コーナー」を始め、新たな試みとして左の企画を実施します。また、冬期間に階段手すりの設置、旧宅の雰囲気醸成を醸し出す床色への塗り替えなど皆様からのご意見を基に改善を加えてきました。

友の会では、交流と安らぎある空間づくりと、訪れるみなさんに愛される記念館づくりをめざして活動を続けていきますので、既に訪れたことのある方も、まだ来館されたことが無いかたもぜひ一度足を運んでみてください。



『三浦光世氏コーナー』設置

懸賞小説「氷点」で劇的なデビュー後、多くの名作を残し、惜しまれながらこの世を去った三浦綾子さん。今なお、読み継がれている彼女の創作活動を支えたのが、夫・三浦光世氏です。デビュー3年目からは、口述筆記を担当し、時には小説のテーマについてアドバイスすることもありました。

愛情深い助言者である三浦光世氏の幼少時代の写真、短冊や色紙など歌人としての側面。いままで発行された書籍等を展示致しました。



『塩狩峠記念館の挿絵』展示

2001年(平成13年)6月に発行された、JR北海道の機関紙「THEJRHokkaido」の「ズウさんの痛快・駅前探見」として塩狩駅が紹介されました。

実際に駅に降り立った感想や、付近の景色・名物などエッセイとして連載しているもので、その際にスケッチした塩狩峠記念館の挿絵を「ズウさん」の愛称でおなじみの渡辺俊博さんに新たに書起こしを依頼したところ、快く承諾いただき、館内に展示することとなりました。



『新たなグッズの検討』

現在、パンフレット、ピンバッジ、ポストカード、塩狩峠ステッカー、文庫本「塩狩峠」など取り扱っておりますが、今年度、来館者の皆様に記念となる新たなグッズの販売を検討しています。

「塩狩峠」の挿絵を描いた中西誠治氏の直筆しおり
ガラスブロックのフォト飾り
などを検討しています。まだ未定ですが、決定しだい塩狩峠記念館で販売していきます。

千三百個のアイス
キャンドルに包まれ

「殉職九十六年長野政雄さんを偲ぶアイスキャンドルの集い」開催

二月二十八日、長野政雄さんをしるぶアイスキャンドルの集いが塩狩峠記念館近くの「長野政雄殉職の地」顕彰碑前で開かれました。

三浦綾子さんの代表作「塩狩峠」の主人公モデルとなった故長野政雄氏を偲び、塩狩温泉の主催で開催されるもので、私たち塩狩峠記念館友の会会員も準備から参加してきました。

殉職した日に併せて開催される集いは、十六回目をむかえ、千三百個のアイスキャンドルから放たれる幻想的な光に会場は包まれていました。



道内外から三浦文学ファン約百名が集まり、賛美歌を歌い、故人の冥福を祈りました。

その後、塩狩峠記念館にて田村牧師より長野政雄さんが愛したピアソン先生についての講演、三浦光世さんから「綾子が愛した長野さんの生きざま」と題した講演が行なわれました。



田村牧師(左) 三浦光世さん(右)

【ジョージ・ベック・ピアソン宣教師】

一八六一年、米国生まれ、四十年間、開拓期の北海道各地で伝道し、監獄伝道や廃娼運動にも尽力された。一八九八年(明治三十一年)から旭川に在住、祈祷会、路傍伝道・日曜学校など行われ、長野政雄さんも熱心に参加した。

ピアソン先生がロシアスパイの嫌疑を受けた時に長野さんはピアソンさんを良く知るものとして、新聞に投書、警察にも出頭し、誤解を解こうとして救援に尽力された。

文学セミナー参加

平成十七年二月十八日、二十五日の二日間、旭川市において三浦綾子記念文学館主催による文学セミナー「三浦綾子を読む」が開催されました。

「塩狩峠」の挿絵を担当された中西清治氏（旭川大学女子短期大学非常勤講師）を講師に「塩狩峠と私」と題した講演が行われました。

信徒の友に「塩狩峠」が二年半、二十九回連載されましたが、一枚の挿絵と一枚のカット絵がノルマだったことや、綾子さんに「正しいと思うことは、大きな声で話さない。大きな声で話すことで、一部でも脳裏に焼きつくし、次に会ったときに励ましを受けたりすることがある。人は励ましを受けることで、更にそのことが続けられる。」と教えられたことなど語っていました。

新刊を揃えました

塩狩峠記念館にて十六年に揃えた蔵書の一部を紹介いたします。

今後よりいっそう充実した記念館となるよう、会員みなさまがお持ちの情報や資料等ありましたら事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

「三浦家の居間で」

宮嶋 裕子
平成十六年一月二十日



初代秘書が語る、作家・三浦綾子の生きざま。大きな挫折の後、気がついたら「秘書」になっていた著者。自分が励まされた綾子のごときは、小説を通して出会った人々との触れあいを綴る。

宮嶋裕子様より寄贈いただきました。

「三浦綾子に出会う本」

平成十六年四月二十五日



作家、三浦綾子の作品・生涯・三浦文学の世界を紹介する本。

「死ぬという大切な仕事」

三浦 光世
平成十六年六月二十日



綾子の生涯における最たる悲劇、誤解されている介護のあり方、綾子が果たせなかった仕事…。作家・三浦綾子を妻に、共に歩んだ夫がその四十年と来たるべき彼方への希望を語る。

三浦光世様より寄贈いただきました。

「二人三脚」

三浦 光世
平成十六年六月三十日



妻・三浦綾子との共同生活の思い出、病、そして死にどう向き合ったか。二人三脚の日々を綴るエッセイ

三浦光世様より寄贈いただきました。

峠の呟き

友の会レターク

久しぶりに「塩狩峠」の本を出してみると、少し陽あせもしているが、表紙を開けると、赤ペンで「昭和四十六年十二月十五日、苦小牧にて購入」と書いてある。確か綾子さんがこの本を書いたのが、昭和四十三年頃と記憶しているので、間もなく買って読んでいたのかと何か不思議な感じをしている。

頁をめくると、三二八頁の中ほどにも赤ペンで印がある。読むと列車が逆走した場面である。当時、冬は苦小牧石炭荷役で働いていたので、合わせて懐かしく思い出している。

また、塩狩峠の映画を観たのは昭和五十一年の冬、出稼ぎ先の岐阜の映画館だったと思う。その時はまさか和寒に記念館ができ、自分が友の会会員になるとは夢にも思っていなかったことである。

何かの因縁を感じていますし、二年前、綾子さんと長野政雄さんのお墓に手を合わせしてきました。この関りをいつまでも大切にしていきたいと考えています。

和寒町字中和 郷 政雄

塩狩峠記念館友の会

会員を募集中！

参加条件は問いません！
入会料は、300円（バッジ代）です。
お申し込み・問い合わせはこちらまで！

「塩狩峠記念館友の会事務局」

〒098-0192
上川郡和寒町字西町120番地
和寒町役場産業振興課内
TEL 016532-2421
FAX 016532-4238
アドレス
ki-shoukou@town.wassamu.hokkaido.jp